

1. 事業のあゆみと推移

(1) あゆみ

年	月	沿	革
明治			
31	4	○ 旧海軍鎮守府設置の勅令公布、軍用水道建設工事計画策定	
	8	○ 軍用水道建設工事着手	
		○ 与保呂地内、桂川の渓流水に水源を求める。	
		桂貯水池	V = 6,000 m ³
		計画給水量	2,000 m ³ /日
33	9	○ 桂貯水池完成	
34	10	○ 北吸浄水場完成	
		緩速ろ過池	2池
		配水池	1池
	11	○ 旧軍用水道（与保呂水源系統）通水開始	
38	6	○ 日露戦争による軍事拡充に合わせて、桂貯水池増強及び岸谷貯水池工事着手	
		桂貯水池	V = 24,705 m ³
		岸谷貯水池	V = 1,500 m ³
		北吸ろ過池	1池
		計画給水量	6,000 m ³ /日
	9	○ 桂貯水池増強及び岸谷貯水池完成	
43	11	○ 北吸浄水場ろ過池1池増設工事着手	
45	3	○ 北吸浄水場ろ過池完成	
大正			
6	2	○ 第1期拡張工事着手	
		岸谷貯水池	V = 210,000 m ³
		計画給水量	8,000 m ³ /日
10	6	○ 第1期拡張事業完成、通水開始	
		岸谷貯水池	V = 1,500 m ³ 廃止
昭和			
12	1	○ 元舞鶴町と日ノ出紡織株式会社との共同経営による上水道事業（岡田水源系統）着手	
		○ 舞鶴港改修が完成するなど、商工都市としての開発に合せて、水道の新設計画が審議された。	
12	1	事業計画	
		事業認可	昭和12年8月21日（内務省京衛第6号）
		計画給水人口	29,500人

		<p>計画給水量 9,700 m³/日 内訳 一般給水 5,900 m³/日 工場給水 3,800 m³/日</p>
13	2	○ 岡田水源系統施設の一部完成 日ノ出紡織株式会社舞鶴人絹工場へ原水の給水開始
14	5	○ 第2期拡張事業（有路水源系統）着手 昭和12年、日支事変の勃発により、軍用施設が拡張され、給水量に不足をきたし、大規模な水源施設の必要に迫られ新たに由良川に水源を求める。 取水設備 一式 浄水場 一式（ろ過池4池、沈でん池2池） 覆配水池 V= 3,000 m ³ ×2池 計画給水量 23,000 m ³ /日
15	5	○ 元東舞鶴市上水道事業着手 軍港都市としての都市基盤整備上、軍用水道（有路水源第1系統）から分与を受ける計画 事業計画 事業認可 昭和15年5月27日（厚生省京衛第141号） 計画給水人口 35,000人
16	3	○ 与保呂水源系統の行永浄水場（旧海軍病院用）完成 計画給水量 300 m ³ /日 ○ 北吸浄水場拡張工事完成 緩速ろ過池 2池 ○ 大波下加圧ポンプ設備、中田調整池（旧平第2海兵団用）完成 配水池 V= 500 m ³
18	3	○ 岡田水源系統を旧海軍軍用水道として買収 戦時統制による資料難のため、未完成のまま旧海軍が買収
	5	○ 元舞鶴市と元東舞鶴市の合併により現在の舞鶴市が上水道設備を継承したが、資料難のため工事中止
	8	○ 第2期拡張工事事業完成、通水開始
	9	○ 大野辺配水池（西地区軍需施設用）完成 配水池 V= 1,000 m ³ 1池
19	3	○ 上安加圧ポンプ所完成 西地区軍需施設の余剰水を東地区軍需工場に給水するため、加圧ポンプで覆配水池に送水
20	10	○ 終戦により、軍用水道の全施設を舞鶴市が管理運営 与保呂水源系統 給水能力 8,000 m ³ /日 有路水源系統 " 15,000 m ³ /日 岡田水源系統 " 9,700 m ³ /日
22	9	○ 水道料金の改定
23	6	○ 水道料金の改定

24	7	○ 原水に海水が浸入したため、岡田水源系統の全施設を遊休とする。
25	2	○ 配水管布設事業着手 ○ 水道料金の改定
27	1	○ 水道料金の改定
28	9	○ 旧軍港市転換法により軍用水道施設無償譲受 (昭和 28 年 9 月 22 日 契不第 186 号)
29	1	○ 水道料金の改定
32	4	○ 第 3 期拡張事業（有路水源第 2 系統）着手、岡田水源系統の活用 有路ポンプ場～岡田中継ポンプ場～上福井浄水場～榎配水池 事業計画 事業認可 昭和 32 年 7 月 3 日（厚生省京衛第 536 号） 計画給水人口 63,000 人 計画給水量 33,000 m ³ /日
33	3	○ 大野辺配水池を有路水源系統に切替 ○ 上安加圧ポンプ設備増強
11		○ 北吸浄水急速ろ過池、大波下加圧ポンプ所、中田調整池等を廃止
34	6	○ 第 3 期拡張事業完成、通水開始 ○ 大野辺配水池廃止
	10	○ 水道料金の改定
35	4	○ 地方公営企業法適用 ○ 施設整備事業（与保呂浄水場等）着手
	7	○ 大宮簡易水道、上水道に統合
	9	○ 大江町二箇簡易水道への分水開始 ○ 由良川水利使用許可（京都府指令 3 河第 1 - 27 号）
38	4	○ 給水工事公認業者制度導入 ○ 水道料金の改定、全面計量制に移行 ○ 集金業務嘱託制度導入
39	4	○ ㈱京都銀行を出納取扱金融機関に指定
	10	○ 由良川洪水対策として、特別高圧変電設備を有路ポンプ場から有路浄水場へ移設 ○ 榎配水池を無人化し、上安ポンプ所からの遠隔監視制御設備に改良
39	11	○ 与保呂浄水場施設整備完成 ○ 北吸浄水場緩速ろ過池及び行永浄水場を廃止
42	7	○ 河辺水源系統を工業用水道として完成 ○ 日本板ガラス株式会社、平地区合板 4 社へ通水開始
	8	○ 水道料金の改定
	9	○ 河辺川水利使用許可（京都府指令 2 河第 1 - 216 号） ○ 由良川水利使用許可（建設省 41 地河第 1164 号）
43	6	○ 岡田中継ポンプ所を無人方式に改良
44	5	○ 第 4 期拡張事業（河辺水源系統）着手

		事業計画
		事業許可 昭和 44 年 9 月 26 日 (厚生省環第 602 号)
		計画給水人口 68,000 人
		計画給水量 38,000 m ³ /日
	8	○ 河辺浄水場完成
		工場用水道として設置した施設を改良し、河辺浄水場新設
	9	○ 第 4 期拡張事業 (二箇水源系統) 着手
		建設省の補償工事として、二箇取水場の建設着手
	10	○ 河辺川水利使用変更許可 (京都府指令 4 河第 1 - 64 号)
45	10	○ 第 4 期拡張事業完成
		○ 由良川水利使用変更許可 (建設省近地河整発第 40 号)
		○ 第 5 期拡張事業 (由良川水源系統) 認可
		事業計画
		事業認可 昭和 45 年 11 月 10 日 (厚生省環第 708 号)
		計画給水人口 85,000 人
		計画給水量 71,000 m ³ /日
	11	○ 由良川水源系統導水管布設工事開始
46	4	○ 検針業務を委託、隔月検針の実施
	6	○ 水道料金調定業務を電算委託 (調定)
47	7	○ 岡田中継ポンプ所廃止
48	4	○ 水道料金の改定
49	2	○ 河辺川水利使用許可更新 (京都府指令 9 河第 1 - 38 号)
	5	○ 榎配水池、上福井浄水場から遠隔監視制御設備に改良
	6	○ 城屋 (高区) 配水池完成
	7	○ 第 5 期拡張事業、上福井浄水場第 1 次分 (浄水場 30,000 m ³ /日) 完成、通水開始
		○ 有路第 2 系の全施設を廃止
50	3	○ 上福井浄水場排水処理設備完成
		○ 上安ポンプ所廃止
	4	○ 職員給与事務電算委託
	8	○ 水道料金の改定
51	3	○ 二箇取水場受変電設備完成 (特別高圧変電設備を有路浄水場から移設)
		○ 二箇取水場、上福井浄水場からの遠隔監視制御設備に改良
	4	○ 水道料金の改定
54	2	○ 河辺川水利使用許可更新 (京都府指令 4 河第 11 - 1 号)
55	3	○ 由良川水利使用許可更新 (建近水第 69 号)
57	8	○ 第 5 期拡張事業の変更 (鹿原簡易水道上水道に統合、八雲無水源簡易水道新設) 認可
		事業計画

		事業認可 昭和 57 年 8 月 16 日 (厚生省環第 446 号)
		計画給水人口 100,000 人
		計画給水量 71,000 m ³ /日
	9	○ 給水引込管の配管材料にステンレス管を採用
	12	○ 大江町二箇簡易水道への分水解除
58	1	○ 鹿原簡易水道上水道に統合、通水開始
	7	○ 有路浄水場休止
	8	○ 八雲無水源簡易水道完成、通水開始
	10	○ 第 5 期拡張事業第 2 次分上福井浄水場増設工事着手
		○ ダクタイル鋳鉄異径管に内面エポキシ樹脂粉体塗装を採用
59	3	○ 由良川水源系統導水管布設工事完了
	8	○ 上福井浄水場増設工事着手
	10	○ 水道事業年報発刊
	11	○ 水道料金収納事務電算化 (調定、収納、消込)
60	3	○ 上福井浄水場沈殿ろ過池躯体築造工事完成
		○ 河辺川水利使用許可更新 (京都府指令 60 河第 11 - 88 号)
	4	○ 水道料金毎月徴収から隔月徴収に移行
	5	○ 与保呂水源桂貯水池が近代水道百選に選定される
61	3	○ 中区配水池完成
		○ 上福井浄水場 浄水施設 15,000 m ³ 工事完了 (2 次分 1/2 系列) により 浄水能力 45,000 m ³ /日
		○ 上福井浄水場管理棟増築工事完了 (発電機、水質試験室他)
		○ 有路取水場取水口改造工事完了
	12	○ 上福井浄水場他監視制御設備工事着手
62	3	○ 二箇水源系統第 1 サージタンク改良工事完了
	4	○ ダクタイル鋳鉄管 φ 200 以上 K 型継手管採用
63	3	○ 上福井浄水場他監視制御設備完成
		○ 上福井浄水場 浄水施設 15,000 m ³ 工場完了 (2 次分 2/2 系列) により 浄水能力 60,000 m ³ /日
平成		
元	3	○ 第 5 期拡張事業の変更 (水間下、蒲江上、蒲江下、女布簡易水道上水道に統合、 八雲、神崎無水源簡易水道新設) 認可
		事業計画
		事業認可 平成元年 3 月 28 日 (厚生省生衛第 271 号)
		計画給水人口 100,000 人
		計画給水量 71,000 m ³ /日
2	3	○ 河辺川水利使用許可更新 (京都府指令 2 河第 11 - 70 号)
	4	○ 水道料金調定、収納システム導入により独自処理 (調定、収納、消込、帳簿作成)
3	3	○ 由良川水利使用許可更新 (建近水第 116 号)

	4	○ 女布簡易水道、上水道に統合、通水開始 ○ ダクティル鑄鉄管全口径K型継手管採用 ○ 会計事務処理電算（OA）化
4	3	○ 八雲、神崎無水源簡易水道完成、通水開始
5	3	○ 万願寺、今田無水源簡易水道完成、通水開始
6	3	○ 由良川取水計画の検討
	4	○ 工事費積算システムを導入
	9	○ 京都府下 26 市町で水道災害相互応援に関する覚書を結ぶ
7	1	○ 阪神・淡路大震災への支援を行う（給水、復旧）
	3	○ 河辺川水利使用許可更新（京都府指令 7 河第 11 - 32 号）
	7	○ 水道料金・下水道使用料の調定、収納業務一本化
	8	○ 与保呂大滝が水源の森百選に選定される（林野庁）
	12	○ 郵便局を収納取扱金融機関に指定
8	4	○ 郵便局を口座振替取扱金融機関に指定 ○ 水道未普及地域の解消計画推進のため、地元負担軽減策がスタート
	7	○ 直結式による給水装置の配管材料にステンレス管を採用
9	10	○ 給水装置資材、国の性能基準品適用（規制緩和）
10	3	○ 堂奥無水源簡易水道完成、通水開始
	4	○ 公認業者制度から指定店制度へ移行（国の指定基準適用）
	12	○ 第 6 期拡張事業（池内、城屋、天台簡易水道を上水道に統合、平、赤野、河辺中、西屋、室牛、登尾、吉坂、多門院地区の水道未普及地域の解消）認可事業計画 事業認可 平成 10 年 12 月 22 日（厚生省収生衛第 1479 号） 計画給水人口 90,000 人 計画給水量 71,000 m ³ /日
12	3	○ 河辺川水利使用許可更新（京都府舞鶴土木事務所指令 2 舞土第 2 - 609 号）
	4	○ マッピングシステム導入
	6	○ 水道だより創刊
	7	○ 検針業務にハンディターミナルを導入
	10	○ 大連市へ水道技術交流調査団（3 名）を派遣
	11	○ 由良川水利使用許可更新（建近水第 95 号）
	12	○ 天台配水池（V=1,000 m ³ ）完成、通水開始
13	3	○ 吉坂水道未普及地域解消事業完成、通水開始 ○ 桂貯水池堰堤が京都府指定有形文化財に指定される
14	3	○ 大連市水道技術交流代表団（4 名）が来鶴 ○ 平、赤野水道未普及地域解消事業完成、通水開始
	5	○ 大連市との水道技術交流意向書に調印（大連市における友好都市 20 周年記念式典において両市長立会のもと）
	10	○ 大連市との水道技術交流で、研修生 1 名を受け入れ（1 ヶ月間）

15	11	○ 大連市へ友好訪問団（4名）を派遣	
	2	○ 多門院水道未普及地域解消事業完成、通水開始	
	4	○ ダクタイトル鑄鉄管φ250～φ400にNS型継手管採用	
		○ 配水管路図デジタル化	
		○ 専任の水道事業管理者が就任	
	5	○ 朝来配水池（V=1,000 m ³ ）通水開始	
	6	○ 3階直結直圧給水の実施（東・西地区市街地の一部）	
		○ 給水装置工事の施工業者による自主検査の実施	
	10	○ 登尾水道未普及地域解消事業完成、通水開始	
		○ 大連市水道技術交流で研修生4名が来鶴	
16	12	○ 舞鶴旧鎮守府水道施設（与保呂、北吸）が国の重要文化財に指定される	
	3	○ 有路取水ポンプ1台更新	
	8	○ 由良川塩水遡上対策として有路取水口上流の州に仮設導水路設置の許可を得る	
	10	○ 台風23号の影響による停電のため、二箇取水場のポンプが停止し取水不能となり、23,300戸が延べ2日間断水。このため日本水道協会京都府支部水道災害相互応援に関する覚書に基づき、支部会員事業体及び自衛隊に給水支援を受ける	
		○ 大連市水道技術交流で研修生4名が来鶴	
17	3	○ 与保呂浄水場管理棟耐震補強工事完成	
17	4	○ 河辺水利利用許可更新（京都府中丹東土木事務所指令7中東土第14号の933）	
		○ 水質検査計画スタート	
18	5	○ ダクタイトル鑄鉄管全口径にポリエチレンスリーブを採用	
		○ 水道事業懇話会の設立	
	2	○ 簡易水道整備の技術支援のため大連市に技術職員を派遣	
		○ 水道料金の改定	
	5	○ 河辺水道未普及地域解消事業完成、通水開始	
		○ 大連市水道関係者5名が、簡易水道施設を視察するために来鶴	
	9	○ 有路補助取水場における水利使用変更許可（15,000 m ³ /日→66,000 m ³ /日）	
		○ 「まいづるの水 東郷源水」販売開始	
	19	2	○ マッピングシステム更新（給水管情報と配水管情報を統合）
			○ 簡易水道整備の技術支援のため大連市に技術職員を派遣
5		○ 二箇取水場に魚をセンサーとした水質連続監視装置を設置	
6		○ 水道部公式ホームページの開設	
		○ 大連市水道関係者9名が簡易水道施設を視察するため来鶴	
7	○ 北九州市が行う研修受入事業で来日したカンボジア国水道関係者2名が塩素ガス取扱研修のため来鶴		
20	11	○ 「まいづるの水 東郷源水」2回目製造	
	1	○ 料金システム更新	
		3	○ 事業変更届出の受理 事業の譲り受け（八雲簡易水道を上水道に統合）

		事業計画
		届出受理 平成 20 年 3 月 31 日 (健水収第 0331001 号)
		計画給水人口 90,700 人
		計画給水量 71,242 m ³ /日
		軽微な変更 (河辺原、河辺由里、枳尾簡易水道を上水道に統合)
		届出受理 平成 20 年 3 月 31 日 (健水収第 0331002 号)
21	4	○ 漏水減免実施
	6	○ 3 階直圧給水区域拡大 (野原寺、高野由里、天台、朝来中他地区を追加)
		○ 料金滞納で給水停止
	7	○ 前年に引き続きカンボジア国水道関係者 2 名が塩素ガス取扱研修のため来鶴
	12	○ 「まいづるの水 東郷源水」3 回目製造
	4	○ 簡易水道負担金の軽減
		○ 有路補助取水施設完成
	7	○ カンボジア国水道関係者 4 名が塩素ガス取扱研修のため来鶴
	9	○ 水道部公用車に「舞鶴市水道部」表示のステッカー
	11	○ 「まいづるの水 東郷源水」4 回目製造
22	3	○ 「舞鶴市水道ビジョン」「舞鶴市簡易水道統合計画書」作成
		○ 河辺川水利使用許可更新(京都府中丹東土木事務所指令 2 中東土第 11 号の 445)
		○ 上水道料金、コンビニ収納開始
	4	○ 由良川水利使用許可更新 (21 国近整水第 401 号)
	10	○ 「まいづるの水 東郷源水」5 回目製造
23	3	○ 榎配水池更新工事完成、通水開始
		○ 東日本大震災への支援を行う (応急給水)
		○ 事業変更届出の受理
		軽微な変更 (水道未普及地域解消事業 (大山))
		(田井、成生、野原、吉田、青井、白杉、上根寺田、岸谷簡易水道を上水道に統合)
		(大君、白滝飲料水供給事業を上水道に統合)
		届出受理 平成 23 年 3 月 18 日 (健水収 0318 第 4 号)
		計画給水人口 90,700 人
		計画給水量 71,242 m ³ /日
	6	○ 「まいづるの水 東郷源水」6 回目製造
	7	○ 大波隧道配水池完成、通水開始
24	4	○ 榎配水池工事竣工式
	12	○ 「まいづるの水 東郷源水」7 回目製造
		○ 由良川水利使用許可更新 (国近整水第 172 号)
25	3	○ 給水装置工事設計施工基準の全面改定
	4	○ ダグタイル鑄鉄管 G X 形継手管採用 (平成 24 年度から G X 型継手管一部採用)
		○ 「まいづるの水 東郷源水」市制 70 周年記念ボトル製造

	9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二箇取水場電気棟の完成 ○ 台風 18 号により岡田由里地区、岡田下地域の簡易水道施設が影響を受け約 1 日断水が発生した。また市内全体では 391 世帯の水道使用料を減免した。
26	11	○ 天台浄水場休止
	3	○ 「まいづるの水 東郷源水」製造販売終了
	4	○ 大山水道未普及地域解消事業完成、通水開始
		○ 岡田中地区簡易水道施設統合の完了
27	1	○ 二箇取水場ポンプ更新 (2 台)
	3	○ 「舞鶴市水道ビジョン」改訂。(平成 27 年度～平成 31 年度)
		○ 料金システムの更新
	8	○ 水道事業審議会の設置
28	4	○ 4 月 1 日付で水道部と下水道部が組織統合し、上下水道部が発足
		○ 吉田・青井・白杉簡易水道を上水道区域へ統合
		○ 大君飲料水給水施設を上水道区域へ統合
	10	○ 東大浦地区の田井簡易水道を上水道区域へ統合
		○ 「水道料金の改定」

(2) 事業の推移と認可

区分	内容	水源系統	工期	事業費
創設		与保呂水源	明治31年8月 } 明治34年10月	軍用水道のため不明
増強事業		〃	明治38年6月 } 明治45年3月	〃
第1期拡張事業		〃	大正6年2月 } 大正10年6月	〃
	元舞鶴町 日ノ出紡織株式会社 創設	岡田水源	昭和12年1月 } 昭和13年2月	軍買収金 (昭和18年3月) 1,543,808円86銭
第2期拡張事業		有路水源	昭和14年5月 } 昭和18年8月	軍用水道のため不明
旧軍用水道より 分水事業		〃	昭和15年5月 } 昭和18年5月 (工事中止)	
旧軍用水道 舞鶴市へ移管		与保呂水源 有路水源 岡田水源	昭和20年10月	(終戦により軍用水道の
旧軍用水道 舞鶴市へ無償譲渡		与保呂水源 有路水源 岡田水源	昭和28年9月	(旧軍港市転換法により
配水管布設事業 (未給水対策)		与保呂水源 有路水源	昭和25年 } 昭和32年3月	800,000千円
第3期拡張事業		有路水源	昭和32年4月 } 昭和34年6月	133,420千円

事業計画	創設名(事業者)	備考
軍用水道のため不明 計画給水量 2,000m ³ /日	旧海軍鎮守府	桂貯水池容量 6,000m ³ 導水管 φ175 L=9,600m 北吸浄水場 緩速ろ過池 2池 配水池 V=2,400m ³ 1池
軍用水道のため不明 計画給水量 6,000m ³ /日	〃	桂貯水池嵩上げ V=24,705m ³ 岸谷貯水池 V=1,500m ³ 北吸浄水場ろ過池 1池
軍用水道のため不明 計画給水量 8,000m ³ /日	〃	岸谷貯水池 V=210,000m ³ 岸谷貯水池 V=1,500m ³ 廃止 導水管 φ350(布設替) 連絡管 L=1,000m 配水池(北吸) V=2,460m ³ 1池
事業認可(内務省京衛第6号) 昭和12年8月21日 計画給水人口 29,500人 計画給水量 9,700m ³ /日	元舞鶴町 日ノ出紡織株式会社 (共同経営)	集水埋きよ 取水ポンプ φ600 L=7,730m 導水管 φ500~φ400 L=6,986m 送配水管 V=1,000m ³ 1池 配水管 加圧ポンプ所 沈でん池 圧力式急速ろ過池 連絡管 φ600 L=120m
軍用水道のため不明 計画給水量 15,000m ³ /日	旧海軍鎮守府	集水埋きよ取水塔 取水ポンプ 気曝沈でん設備 1式 急速ろ過池 4池 大波下加圧ポンプ所 送水管 φ550 L=20,100m 複配水池 V=3,000m ³ ×2池
	元東舞鶴市	軍用水道より分水 配水池 配水管布設 (戦時統制による資材入手難のため中止)
全施設を舞鶴市が管理運営)		
軍用水道施設無償譲受)		
市民の生活用水として 給水計画	舞鶴市	配水管計画布設 L=23,813m 配水管延長 L=97,787m 本計画布設 L=23,827m 元舞鶴市・元東舞鶴市布設 L=38,326m 旧海軍布設 L=35,644m
事業認可(厚生省京衛第536号) 昭和32年7月3日 計画給水人口 63,000人 計画給水量 33,000m ³ /日	〃	集水埋きよ(増設) 導水管 L=13,273m(内7,728m既設) 急速沈でん池 1池 急速ろ過池 4池 配水池 V=1,000m ³ ×2池

施設整備事業	与保呂水源 有路水源	昭和35年4月 } 昭和39年11月	45,540千円
第4期拡張事業	河辺水源 二箇水源	昭和44年5月 } 昭和45年10月	13,270千円
第5期拡張事業	由良川水源 (有路系統統合)	昭和45年12月 } 昭和63年3月	12,344,600千円
第5期拡張 事業の変更	〃	昭和57年8月 } 平成8年3月	
〃	〃	平成元年4月 } 平成10年3月	
第6期拡張事業	天台水源 城屋水源 池内水源	平成11年4月 } 平成25年3月	(予算額) 9,093,700千円
〃	八雲(和江)水源	平成19年4月 } 平成28年3月	(予算額) 12,066,000千円
〃	由良川水源	平成22年4月 } 平成32年3月	(予算額) 13,539,000千円

施設整備5か年 (逐年実施)	舞鶴市	与保呂浄水場新設(北吸浄水場廃止) 有路受変電設備移設 取水ポンプ所 } 改築 集中管理室 } 急速ろ過装置 } 整備 配水地 }
事業認可(厚生省環第602号) 昭和44年9月26日 計画給水人口 68,000人 計画給水量 38,000m ³ /日	〃	給水区域拡張 ○元西大浦区域の一部 取水ポンプ 2台 導水管 φ250 L=454m 配水管 V=450m ³ 1池 滅菌設備 1式 急速ろ過池 1池 二箇取水場施設 1式 取水能力66,000m ³ /日
事業認可(厚生省環第708号) 昭和45年11月10日 計画給水人口 85,000人 計画給水量 71,000m ³ /日	〃	給水区域拡張 ○堂奥、田中町、田中、安岡、小倉、鹿原 与保呂、京月町、吉野、白屋、白屋町、京田 七日市、公文名、万願寺、今田、清道、天台 清美ヶ丘、高野由里、城屋、野村寺、女布 取水門 3門 取水ポンプ 4台 導水管 φ800 L=9,655m 取水・送水操業遠方監視 制御方式浄水設備 1式 配水池 { V=3,500m ³ ×2池 V=3,500m ³ ×1池 V=3,000m ³ ×2池 V=3,000m ³ ×1池 配水管 φ800~75 L=71,260m 送水管 φ800 L=9,396m
事業認可(厚生省環第446号) 昭和57年8月16日 計画給水人口 100,000人 計画給水量 71,000m ³ /日	〃	給水区域拡張 ○八雲無水源(三日市、上東、下東) ○鹿原簡易水道上水に統合
事業認可(厚生省環第271号) 平成元年3月28日 計画給水人口 100,000人 計画給水量 71,000m ³ /日	〃	給水区域拡張 ○八雲・神崎無水源(中山、水間、蒲江、油江、 東神崎、西神崎) ○水間下、蒲江上、蒲江下、女布簡易水道を上水道に統合
事業認可(厚生省収生衛第1479号) 平成10年12月22日 計画給水人口 90,000人 計画給水量 71,000m ³ /日	〃	給水区域拡張 ○水道未普及地域解消事業(平、赤野、河辺中、 西屋、室牛、登尾、吉坂、多門院) ○池内、城屋、天台簡易水道を上水道に統合
事業変更届出の受理 (事業の譲り受け、健水収第0331001号) 平成20年3月31日 計画給水人口 90,700人 計画給水量 71,242m ³ /日 (軽微な変更、健水収第0331002号)	〃	給水区域拡張 ○八雲簡易水道を上水道に統合 ○河辺原、河辺由里、栃尾簡易水道を上水道に統合
事業変更届出の受理 (軽微な変更、健水収0318第4号) 平成23年3月18日 計画給水人口 90,700人 計画給水量 71,242m ³ /日	〃	給水区域拡張 ○水道未普及地域解消事業(大山) ○田井、成生、野原、吉田、青井、白杉、上根寺田、 岸谷簡易水道を上水道に統合 ○大君、白滝飲料水供給施設を上水道に統合

(3) 水利使用許可の推移

1 由良川水系由良川（1級河川）

年	許可取水量		内 容	許可番号	許可年月日
	最大取水量 m ³ /S	1日最大取水量 m ³ /日			
昭和 35	0.308	26,600	新規に水利使用許可を取得	京都府指令 3河第 1-27 号	昭和 35. 9. 5
42	0.371	32,000	水需要の増加に対処するため、水利使用水量を変更	建設省 41 地河第 1164 号	42.9.14
45			由良川河川改修により有路取水場の取水施設が支障となり建設省の指示により、二箇取水場へ取水位置を変更	近地専河発第 2 号	45.1.29
45	0.764	66,000	水需要の増加に対処するため、水利使用水量を変更	建設省近地河政発第 40 号	45.11.9
55	0.764	66,000	本取水口の塩水遡上に対処するため補助取水口からの取水について水利使用を変更	建近水第 69 号	55.3.31
62			有路取水場の旧取水施設の除却	61 建近水第 423 号	62.2.12
平成 3	0.764	66,000	期間更新(導水管φ800 系統の河川占用について整理)	建近水第 116 号	平成 3.3.30
12	0.764	66,000	期間更新(予備導水管を、水利使用施設として追加・水利使用規制の変更)	建近水第 95 号	12.11.2
18	0.764	66,000	本取水口の塩水遡上に対処するため補助取水口からの取水について水利使用を変更	国近整水第 54 号	18.9.26
22	0.764	66,000	期間更新	21 国近整水第 401 号	22.4.30
24	0.764	66,000	取水ポンプ 2 台と電磁流量計 1 台の更新	国近整水第 172 号	24.12.27

※ 補助取水口の許可取水量は 0.764 m³/S (66,000 m³/日)。但し本取水口からの取水が 0.764 m³/S に満たない場合に限り、その満たない範囲内において取水することができる。

本取水口（二箇取水場）福知山市大江町二箇小字狭迫 258 番地先（右岸 17.0 km+180m）

補助取水口（有路補助取水場）福知山市大江町二箇小字狭迫大嶋 2215 番の 3 地先（右岸 19.8 km+37m）

2 河辺川水系河辺川（2級河川）

年	許可取水量		内 容	許可番号	許可年月日
	最大取水量 m ³ /S	1日最大取水量 m ³ /日			
昭和 42	0.0284	2,450	工業用水道として平地区合板団地、日本板硝子舞鶴工場に給水するため新規に水利使用許可を取得（沈澱処理水で給水）	京都府指令 2河第 1-216 号	昭和 42. 8. 8
44	0.0614	5,300	上水道の水需要に対処するため水利使用水量を変更河辺浄水場ろ過施設、滅菌施設新設	京都府指令 4河第 1 - 64 号	44.10.23
49	0.062	5,300	期間更新	京都府指令 9河第 1 - 38	49.2.14
54	0.062	5,300	期間更新	京都府指令 4河第 11 - 1	54.2.20
60	0.062	5,300	期間更新	京都府指令 60河第 11 - 88	60.3.30
平成 2	0.062	5,300	期間更新	京都府指令 2河第 11 - 32	平成 2.3.30
7	0.062	5,300	期間更新	京都府指令 7河第 11 - 32	7.3.27
12	0.062	5,300	期間更新	京都府舞鶴土木事務所 指令 2 舞土第 2 - 609 号	12.3.31
17	0.062	5,300	期間更新	京都府中丹東土木事務所 指令 7 中東土第 14 号の 933	17.4.1
22	0.062	5,300	期間更新	京都府中丹東土木事務所 指令 2 中東土第 11 号の 445	22.3.29
27	0.062	5,300	期間更新	京都府中丹東土木事務所 指令 7 中東土管第 11 号の 772	27.3.31

取水口 舞鶴市字中田小字川向 310 番地の 5 地先

(4) 平成28年度事業概況

1 事業概況

本市の水道事業は、近年の人口減少や節水機器の普及、節水意識の高まりなどにより、水道水の使用量が年々減少し、この結果、料金収入が減少している状況にありました。一方で、多くの水道施設や管路が耐用年数を越え、これらの更新や、さらには地震等の自然災害に対応した対策を行う事が必要となっております。

このような中、将来にわたり安心して安全な水道水を安定的に供給するためには、計画的に施設を整備する必要があり、不足する財源を確保し、水道事業の健全経営を図る事を目的に、平成28年10月から水道料金を改定いたしました。

更に、平成28年4月には、水道部と下水道部を上下水道部に組織統合し、窓口の一元化を図り、より迅速かつ利便性の高いサービス提供を行なうと共に、両部に共通する事務の一体化や類似業務の統合による経営コストの削減を図りました。

このような取組と合わせ、水道施設につきましては、平成24年度から施工しております上福井浄水場施設更新において、管理棟新築工事が完成したほか、機械・電気設備工事を前年度に引き続き進めました。さらに、老朽水道管の耐震管路への布設替や漏水対策を行った結果、有収率は、前年度と同様の95.6%となり、全国の中でも高い水準を維持しております。

また、簡易水道は、平成30年4月1日に全てを上水道へ統合する事業を進めており、この内、事業が完了しました「白杉、青井、吉田、大君、田井地区」につきましては、平成28年度に上水道へ統合いたしました。

2 業務量

平成28年度末の給水人口は80,097人、給水戸数は30,412戸、上水道普及率は95.2%、簡易水道、専用水道など合わせての水道普及率は99.5%でした。

給水状況については、給水量は、前年度に比べ111,567 m^3 少ない、10,326,203 m^3 で、対前年度比1.1%減でした。有収水量は、対前年度比1.1%減の9,866,821 m^3 となりました。

3 収支の状況

収入は、料金改定の実施により、給水収益は4,177万9,449円増加しました。

一方、負担金等が大幅に減少したことにより、営業収益は前年度より7,374万9,332円減少しました。また、営業外収益は前年度より937万4,541円の増加となりました。これらにより、収入総額は、前年度より6,438万3,300円減少し、16億5,186万9,902円となりました。

支出は、減価償却費等が増加しましたが、水道部と下水道部の統合による組織のスリム化による経費節減や、水道管移設工事等の修繕費が大幅に減少したことにより、営業費用は、前年度より1億4,881万2,072円減少しました。

また、特別損失においても、引当金計上額の減少により、前年度より4,185万1,092円の減少となりました。これらにより、支出総額は、前年度より1億7,679万9,868円減少し、14億9,739万4,147円となりました。この結果、当年度純利益は、前年度より1億1,241万6,568円増加し、料金改定時に見込んでおりました額とほぼ同じ、1億5,447万5,755円となりました。この純利益につきましては、水道ビジョンに基づき実施する、老朽化した水道施設の更新の財源として活用する予定としております。